

第 103 回大腸癌研究会リンパ節委員会 議事録

2025 年 7 月 3 日 (木) 14:30~15:30

ザ・グランユアーズフクイ (ホテルフジタ福井) 4F 栄の間 + WEB

<出席者 (敬称略)>

金光幸秀 (国立がん研究センター中央病院)、神藤英二 (自衛隊中央病院)、小川真平 (東京女子医科大学)、野澤宏彰 (東京大学)、塩澤学 (神奈川県立がんセンター)、川村純一郎 (近畿大学)、尾崎公輔 (茅ヶ崎市立病院 ※代 川合一茂)、女屋博昭 (愛知県がんセンター)、三口真司 (県立広島病院)、渡邊 純 (横浜市立大学附属市民総合医療センター)、須藤 剛 (山形県立中央病院)、大内晶 (愛知県がんセンター)、片岡幸三 (兵庫医科大学)、池田 聡 (県立広島病院)、丸山 聡 (新潟県立がんセンター新潟病院)、高山裕司 (自治医科大学)、安井昌義 (関西労災病院)、高見澤康之 (事務局、国立がん研究センター中央病院)

<WEB 出席者 (敬称略)>

豊田尚潔 (栃木県立がんセンター)、吉田武史 (久留米大学)

<議事>

リンパ節委員会で検討中の 4 つの課題について、各小委員会から進捗の報告がなされた。

(1) 課題 1. N3 分類の再定義

発表 大内先生

検討課題「結腸癌における郭清効果 index の検討」

大腸癌研究全国登録データを用いて、Stage I-III 結腸癌における郭清効果 index の検討 (深達度別の検討) を行った。約 20000 例を対象とした解析で、右側結腸と左側結腸に分けた深達度別の郭清効果 index が供覧された。sT2N0 の 3 群の郭清効果 index は sT1 とほぼ同等であり、こちらに対して D3 郭清を勧める根拠は乏しい可能性がある。一方で sT2Nany, sT3-4 の郭清効果 index は sT1, sT2N0 と比較して高く、こちらに対しては従来通りの D3 郭清が推奨される。

上記結果に対し委員からの反対意見は特になく、このまま学会発表、論文化を進める方針となった。

また、先行して行われた主占拠位別の検討については、前回委員会後に AG surg 誌に accept されたことが報告された。

主占拠部位別の検討結果については、次回大腸癌研究会の規約改定委員会の議案として提出をする予定。今回提案された深達度別の検討に関してはガイドラインに関する内容であり、取扱い規約の改定委員会には提出しない。(金光先生)

(2) 課題 2. リンパ節転移陽性基準の検討

発表 小川先生

結腸間膜 LN、直腸間膜 LN（前治療あり）、直腸間膜 LN（前治療なし）、直腸側方 LN（前治療あり）、直腸側方 LN（前治療なし）それぞれの条件における術前リンパ節診断能に関する論文のシステマティックレビュー、メタアナリシスの経過が報告された。進捗は以下の通り。

- ・結腸（高山先生）：解析終了。今年度中の論文投稿を予定。
- ・直腸間膜（川村先生、尾川先生）：解析終了。論文執筆中。
- ・直腸側方前治療あり（川合先生、尾崎先生）：Expert Review of Anticancer Therapy に accept
- ・直腸側方前治療なし（須藤先生）：解析終了、論文執筆中。
- ・総括（小川先生）：Review 論文を執筆中。

課題 2 からは 1 編の論文が accept された。術前治療を行った側方リンパ節の陽性基準としては MRI のサイズを用いた判定が有用である可能性がある。サイズとして何 mm が指摘カットオフとするかは言及が難しい。（尾崎先生）

規約改定委員会への提言は全ての解析が終了し、論文化が出来てからが望ましい。次回以降の委員会では規約改定に際してどのような提言を行っていくかも議論する（金光先生）。

(3) 課題 3. 側方リンパ節アトラスの作成

発表 渡邊先生

前回委員会後に 3 回の Web ミーティングが開催され、全 6 断面図においてリンパ節 station の範囲が検討された。今回の委員会では修正後の図案が提示され、委員からの反対意見は特になく、承認された。今後はイラストレーターへシェーマ作成を依頼する。

課題 3 については次回委員会の規約改定委員会に議案として提出をする予定。（金光先生）

(4) 課題 4 副右結腸静脈周囲リンパ節の取扱いに関する検討

発表 三口先生

2024 年 7 月 15 日～試験登録が開始された。登録開始から 2025 年 6 月までの期間で 180 例が登録された（集積予定症例数: 400 例）。

以上、4 つの課題の進捗と今後の方針が提示された。今後も課題ごとに進めていく方針。

（文責：事務局 高見澤康之）